

e-dream-s 通信

No. 73 発行：2007年1月21日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

目次

- | | | |
|-------------------|------|------|
| 1. 夢の体力 | 辻 莊一 | p. 2 |
| 2. 進路の研究 | 井川好二 | p. 3 |
| 3. 第 24 回理事会 | 中川房代 | p.10 |
| 4. Rajiv 氏とチキンカレー | 山田昌子 | p.12 |
| 5. 「食べ物」 | 塚本美紀 | p.15 |



ケニア・ムイギ県ヌー郡 教室の建設（1）

©e-dream-s

ケニア・ムイギ県ヌー郡 教室の建設

レンガで教室を建てる。木材や道具は日本の NGO の援助だが、自分たちの学校という意識を育てるため、保護者に建築資材の石を持ち寄ってもらう。（2004年3月 中村由輝氏撮影）

夢の体力

辻 莊一

シュークリーム期限延ばし出荷「不二家本社も了解」 泉佐野工場長証言
「おたべ」でも期限切れ 若狭工場製造チョコ菓子 関西圏に出荷

世の中は賞味期限切れ問題で大騒ぎであります。

森永ヒ素ミルク中毒事件被害者としては、ごく最近の雪印のこともあるのに全く「他山の石」という諺は誰も知らんのか、と言わずもがなのことをつぶやいてしまう事件ではあります。ところで e-dream-s はみんなの夢を集めた NPO 法人、2000 年に認証されてすでに 7 年になろうとしています。この夢にも賞味期限切れがあるのでしょうか。

物事には一番良いときというものがある、それを過ぎれば質が落ちてついには賞味期限切れとなるものではありませんが、一方不朽の名作というものもあります。あ、芸術作品と食品を比較してはいけませんね。それでは夢は芸術か食品かという、これはどちらでもないわけで、それどころかモノでさえないわけです。

夢に近いのはアイデア・思想・概念といったところでしょうか。このジャンルには賞味期限があります。例えばマルクス主義という思想は、もちろん部分的に現代社会に取り入れられ活かされているところもあるとはいいいながら、やはり 2007 年現在、全体としてはとっくに賞味期限切れとっていいでしょう。

ただ夢はアイデアや思想や概念とはどうもちょっと違っている感じがします。アイデアも思想も概念も、マルクス主義のように賞味期限切れになってしまうこともあります。優れたものならばその創造者の限界を超えてさらには時代も超えて生き続けます。一方夢はそれを抱く人間自身との結びつきがもう少し強いようです。信じ続ければ夢は生き続け、外的にせよ内的にせよ何らかの要因で信じることができなくなれば、消えてしまうもののように思えます。つまり夢は夢を持つ人間次第、ということです。

長続きする夢とはどんなものか考えていて、思い当たりました。私たちには体力と精神力以外にきっと夢の体力というものがあるのです。夢には誰かに決められたり、最初から決まっている賞味期限はなく、長続きし実現していくかどうかは夢の体力によるのです。

いい年をして、ましてや小中学生でもないのに夢を語るなんてちょっと恥ずかしいですが、逆におじさんおばさんなのに夢を語るなんてカッコいいかもしれません。体力は若いころのようにありませんが、だからと言ってその夢が必ず萎れてしまうというわけではありません。私たちが体力とも精神力とも違う夢の体力をどれだけ持っているかが、私たちの夢つまり e-dream-s が長続きするかどうかの試金石となっているといえるでしょう。

進路の研究

井川 好二

e-dream-s が特定非営利活動法人(NPO)として発足して7年目を迎えた今年、これからの活動をより活性化し、体制をより盤石なものとするために、今後の方向性をしっかり議論し、必要な決断をするべき時期と云える。進路の研究が大切な7年目である。

加えて、2007年は、団塊の世代¹の第一派、つまり団塊の世代でも最も大人数の1947年生まれが、60歳定年となって現場を離れる年であり、その職場を離れてもまだまだ生気に溢れた大人数の中年層を、どう取り込むかが、様々な「業界」で語られてきた。いよいよ本番の今年である。

退職金目当ての旅行会社が仕込んだ豪華客船クルーズの案内から、過疎の地方自治体からの「Uターン²」「Iターン³」の誘いなど様々なアプローチ。NPOも団塊の世代を取り込みたいのは、他の「業界」と変わりはない。e-dream-sでも、定年を迎える会員が出始めた。事業の進路を考えるタイミングである。

今回は、そうした議論の下敷きとなるよう、e-dream-sの将来の活動の参考となりそうなNGO/NPO活動や企業活動を紹介する。「NPO法⁴」成立から9年経ち、各NPOもさまざまな展開をみせている。選考基準は、e-dream-sの守備範囲である「英語」「国際」「教育」の分野で、ユニークな活動を行っていると思われるNPO法人、株式会社、およびそれ以外の団体とした。

¹ ◆団塊の世代〔世代カタログ〕1947年から49年ごろの、第1次ベビーブームに生まれた世代。命名者は堺屋太一。他の世代に比べて人数が多く、そのため、戦後日本の消費文化を担うことになった。とりわけ漫画やポピュラー音楽、さらにはサブカルチャー全体が彼らを主な消費者として拡大した。2007年頃から彼らの定年退職が始まる。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2005年版]

²ユー - ターン【Uターン】もとの場所や状態に逆もどりすること。特に、地方から大都市に移住した人が出身地などに戻ることに。「一現象」[明鏡国語辞典]

³アイ - ターン【Iターン】大都市の出身者が地方の企業などに就職・再就職すること。[明鏡国語辞典]

⁴ ◆NPO法(Non Profit Organization)〔社会福祉問題〕特定非営利活動促進法といい、1998(平成10)年3月、市民団体と国会議員との協議を経て成立し、12月に施行。17の各分野(保健、医療、福祉、環境保全、まちづくり、災害救助等)における民間非営利団体が、都道府県あるいは内閣府に認証申請をし、認証されなければならない。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2005年版]

読者諸兄諸姉のご意見を待つ。

(1) 議員連盟「アジアの子供たちへ学校をつくる議員の会」

「アジアの子供たちへ学校をつくる議員の会⁵」は、自民党で山形一区選出の衆議院議員、遠藤利明氏が代表をつとめる議員連盟⁶である。遠藤氏は、現在、文部科学省副大臣。満更われわれと畑違いと云うわけではない。

最近新聞⁷に紹介されたこの議連の月会費は、1万5000円。数ある議連の中でも一番高額で、集まった会費は小学校の建設費にあてられる。現在会員は58名で安倍首相も会員と云う。これまで、ラオス、ミャンマー、カンボジアなどで、7校を開校。「ともだち小学校」と云う名称。7つのアジアの小学校と日本の小学校の代表を集めて、「子どもサミット」の開催を企画中。

選挙対策、人気取りと云ってしまえばそれまでだが、シンプルな活動で、一定の成果をあげている点、一概に無視はできない。また、現地の信頼できる人脈や団体を見つける事が、こうした活動のポイントだろうと思える。あるいは、そうした人脈や団体を発見し、ネットワークをつくる事が、事業の根本と考えられるが、その根本がうまくいっているのだろうと、推測できる。

かねてから発展途上国に学校建設する NPO やボランティア団体の活動については、学校は単に建物だけではなく、生徒と教師の日々の営みがあって初めて成り立つものだとする見地から、いくら浄財と云えども日本から資金を送って安易に校舎を建設し贈呈する活動を、先進国国民としての増上慢、あるいは送る側の自己満足だとして、批判的な判断をしてきたが、この辺りでそうした評価も考え直す時期に来ているのかなとも思う。

大多数の会員が教育のプロである NPO として、そうした慎重な態度を取り続け、様々な可能性を探り続けた結果、この方面の活動では7年間で、何の成果も生み出せなかった。志を高く持つあまり、何事もなし得なかったのは、国際や教育の分野を専門とする e-dream-s として

⁵ <http://www.e-toshiaki.jp/aisatsu/aisatsu.html>

⁶ ◆議員連盟(assemblymen union) [1991年版 政党関係] 自民党中心と、超党派のものを含めて400前後ある。議員同士の趣味(柔・剣道、空手、少林寺拳法、囲碁、魚釣り、大衆芸能など)、政策推進グループなど各種。1981(昭和56)年4月には「みんなで靖国神社に参拝する国会議員の会」「日本バングラデシュ議連」「名古屋オリンピック招致推進東海3県議連」などを設立。「財政再建議員研究会」「グリーンカード再検討議連」「日ソ友好議員懇話会」「国際軍縮促進議連」「ジャーナリスト国会議連」、織物の売れ行き増進をかねた「和装振興議連」もある。政界では”一匹狼”より”徒党”を組むほうが得策と、情報交換もかねて、政治の国際化の中で与野党相互乗り入れで組織されている。[現代用語の基礎知識1991～2000年版]

⁷ 「記者手帳：アジアの子に学校を遠藤利明氏」日本経済新聞(2007/1/18)

は、誠に残念と云う他はない。

発展途上国での学校づくりを、これからの活動のひとつとして、是非検討すべきであろう。

(2) 特定非営利活動法人「沖縄県国際理解・異文化交流と国際観光支援センター」

別の調べものをしていて、インターネットで偶然見つけたNPOである。長い名称に表されているように、沖縄における国際理解、異文化交流、国際観光支援を推進する団体。略称は、C. C. C. (CROSS CULTURAL COLLECTIVE)⁸。どうやら、沖縄県教育委員会の肝いりで設立された組織のような気もするが、その点は、C.C.C.のかなり立派なHPを念入りに調べてもはっきりしない。そう言う意味で透明性に欠けるNPOだが、活動は、英語教員研修、高校交換留学、ALT派遣など、多彩である。

地方ではこうした団体へのニーズが大きいのかも知れない。あるいは、沖縄の独自性ということもある。しかし、それにしても、教員研修や高校留学はともかく、ALT派遣となると、なかなか大掛かり。労働者派遣法⁹や就労ビザの問題もあるとおもうのだが・・・

このNPOは、2005年に沖縄における英語教育のあり方を考えるフォーラム「英語ペラペラカントリーを目指して」(共催：琉球新報社)を開催。「英語教育先進国のシンガポール・フィリピンの事例を基に、沖縄でどのような取り組みが必要かを探りました。」結果として:(1)日本・沖縄のことを発信できる国際人の養成が必要、そのために、(2)沖縄の地域性、アジア諸国等との国際交流の歴史、優位性を生かした独自の行動計画や取り組みではないか。

「英語ペラペラカントリーを目指して」などと云う浮ついたフォーラムのタイトルの割には、沖縄の地域性を重視したまともな結論にたどり着いているあたりに、やや好感。

このように地域社会と結びついた「国際」のあり方を探るのも、NPOとして、ひとつの道筋であろう。しかし、その地域社会との結びつき方が、地域事情とそのNPOのコア・コンピテンス¹⁰とのバランスであろう。コア・コンピテンスとは、その組織が最も得意とする中核的

⁸ <http://www.globalsac.com/ccc/index.htm>

⁹ 労働者派遣事業法Manpower Dispatching Business Law ; Worker Dispatching Law 1970年代後半以降コンピュータ関係、通訳、ビル管理など広範な職種で急増した人材派遣業(人材リース業)を法的に認知して、派遣労働者の保護をめざす法律で、1985年制定、翌年施行。正式名称は「労働者派遣事業の適正な運営の確保及び派遣労働者の就業条件の整備等に関する法律」。派遣事業は常用雇用型と登録型とに分けられる。99年12月に施行された改正労働者派遣事業法は、対象業務を原則自由化し、同時に、改正職業安定法は民間職業紹介を原則自由化した。[株式会社有斐閣 有斐閣経済辞典第4版]

¹⁰ ◆コア・コンピタンス(core competence) [経営の問題] 経営の内部資源のひとつの集積がコア・コンピタンスで、「顧客に特定の利益をもたらす一連のスキルや技術をいう」(ゲリー・ハメル、C・K・プラハラード『コア・コンピタンス経営』)。[株式会社自由国民社 現代用

能力、技術のことである。何がしたいのかではなく、何ができるのか？

(3) NPO 京都カルチャービジット

これも偶然インターネットで見つけたNPO。京都で日本語教師をしていた12人の女性が集まり、(1) ボランティア精神を持って、国際交流に貢献し、(2) 女性の埋もれている能力と経験を生かし、(3) 地域の発展に貢献する、という目的のもとに設立されたNPO団体¹¹である。

主な活動は、英語で日本文化を紹介するための講座の開催。京都の地の利を生かし、お茶や日本料理の作法などを外国人に紹介するノウハウを伝授し、修了者はこの NPO の関連の株式会社主催する、外国人のための日本文化講座でアシスタントとして働くチャンスが与えられる。

なかなかよく考えられたシステムではある。日本文化を英語で紹介する人材育成と云うあたり、ややそそられる。しかし、よく考えてみれば、いくらお茶を英語で紹介する術を伝授されても、英語そのものが怪しければ、紹介など覚束ない。やはり、こうした講座の前提として、英語そのものの実力がある程度以上あることが必要。そうなると、受講者がそう沢山いるとは考えにくくなってくる。また、HP をみると、UPDATE が 2006 年のはじめあたりで停まっているようで、その辺りが不安。つまり、関連の株式会社も含めて、採算性が疑問。

(4) キッズベースキャンプ

企業ベースで学童保育¹²を行うことを「民間学童」と云うそうで、「キッズベースキャンプ¹³」は、そうした「民間学童」の一つとして、昨年末の新聞¹⁴に紹介された。

安心できる学童保育は、共働き家庭にとってぜひとも必要なシステムである。少子化が急速に進行する日本社会で、今最も必要とされる教育制度ではないだろうか。一方で、子どもを

語の基礎知識 2005 年版]

¹¹ <http://www.wakjapan.com/npo/>

¹² ◆学童保育〔教育・学校問題〕親が働いていて放課後の保育が十分保障されない小学校低学年児童に対し、保育を行う施設・事業。全国で約23万人が利用している。1997(平成9)年に児童福祉法が大改正され、法的な位置づけがなされた。2003年5月現在、1万3797カ所(全国学童保育連絡協議会調べ)設置されており、約半数が公立の学童保育所で学校・児童館・その他の公共施設に併設されている。そのほかに社会福祉協議会に委託されたり、父母会に委託されるなど公設民営の形態をとるもの、あるいは民設・民営など、設置・運営形態は多様である。98年4月から施行された児童福祉法では従来の「放課後児童対策事業」を「放課後児童健全育成事業」という名称で制度化した。[株式会社自由国民社 現代用語の基礎知識 2005年版]

¹³ <http://www.kidsbasecamp.com/about/policy.html>

ターゲットとした犯罪の増加や、交通事故の危険など、放課後の安全確保の観点からも、しっかりした学童保育が望まれていて、この分野における民間の活力と創造力が期待を集めているのは当然。

こうした背景から昨年9月、東京都世田谷区でスタートした民間学童「キッズベースキャンプ」は、大好評だそうである。その中身は、(1) 子どもの下校時間に合わせて小学校から教室まで車で送迎し、(2) 子どもの入退室をチェックし親にメールで伝える。(3) 塾や習い事への送迎も行う。(4) 保育時間は夜10時まで延長可能で、(5) 必要な子どもには夕食も準備する。

必要な人にはうれしいサービスなのだそうだが、気になるのは利用料金である。基本料金は、5日利用で月額約4万円。高いか安いかは、意見の分かれるところだろう。あるいは、そこが「格差社会」。高所得者層が多く居住する世田谷でスタートと云うのも、納得できる。

キッズベースキャンプのHPによると、その理念は：

公園や神社で元気に遊びまわる子どもの姿があまり見られなくなってしまいました。兄弟や従兄弟も少なく、異年齢の子どもの中かで揉まれるようなコミュニティが、ほとんどないのが現状です。

子どもが集いくつろげる、毎日来たくなる場所。学校でも塾でも学べない子どもが主役の新しいサービスを社会に提案したい。

「キッズベースキャンプ」は、そういう想いから生まれた、今までの学童保育とは違う新しいアフタースクールです。

教育を「サービス」として捉えて形にすれば、こうなると云うサンプルである。小学生の学童保育は、e-dream-sの活動と直接関係する分野ではないが、「サービスとしての教育」を考える切っ掛けとして、有意義だと考える。

(5) 「サンダンス映画祭」、「ゆうばり応援映画祭」、「旭山動物園くらぶ」

サンダンス映画祭¹⁵は、2年前米国ユタ州ソルトレーク市に出張した際に書いた文章の中で、

¹⁴「生活コミュニティ：学童保育、民間がひらく」日本経済新聞 夕刊2006年12月28日。

¹⁵ SUNDANCE FILM FESTIVAL 毎年1月にアメリカのユタ州パーク・シティで開催されているインディーズ映画(独立系映画)の世界最大の映画祭。1985年、ロバート・レッドフォードがサンダンス・インスティテュートを創設・主宰、若手・独立系映画製作者を支援する映画祭として「サンダンス映画祭」をはじめた。この「サンダンス」は映画『明日に向かって撃て!』Butch Cassidy and the Sundance Kid(ジョージ・ロイ・ヒル監督、1969年)でレッド

紹介したことがある。1985年に俳優のロバート・レッドフォードが創設し、毎年1月にユタ州パークシティで開催され、インディーズ系の映画を意欲的に上映している。

毎年この時期なので、日本の学校勤めをしていると、行きたくても行けない。恨めしい限りであるが、そのうちにと思っている。こうした国際的な芸術活動も、NPOとしてお手本とすべきであろう。

今年が目玉となる作品は、「南京事件」(Bill Guttentag & Dan Sturman監督)。70年前におきた日本軍による中国南京での大虐殺事件¹⁶の、アメリカ製ドキュメンタリー映画である。

In the winter of 1937, an invading Japanese army entered the Chinese city of Nanking and proceeded to obliterate the helpless population. Two hundred thousand were killed, and tens of thousands of Chinese women were raped. In the midst of this mayhem¹⁷, a small group of expatriate¹⁸ Westerners--missionaries, businessmen, college professors, and doctors--attempted to create an oasis of safety to protect the citizens they could. It is through their eyes, by means of letters, diaries, and other reports of the destruction, that filmmakers Bill Guttentag and Dan Sturman reveal the events of that terrible time.¹⁹

日本軍による大虐殺の最中に、中国人を助けた西欧人のグループがいたと云う。ことの真偽もさることながら、アメリカ人によるこの事件のドキュメンタリーの描き方に興味を惹かれる。

次に、ここで並べて論じるのは、些か悲しくもあるが、主催の夕張市が、財政破綻したために、幕を下ろした「ゆうばり国際ファンタスティック映画祭²⁰」が、夕張を愛する映画関係

フォードが演じた役サンダンス・キッドから。

<http://d.hatena.ne.jp/keyword/%A5%B5%A5%F3%A5%C0%A5%F3%A5%B9%B1%C7%B2%E8%BA%D7>

¹⁶南京大虐殺【ナンキンだいぎゃくさつ】日本軍が1937年12月の南京占領後の約2か月間に行なった、中国人に対する大量虐殺事件。12.13の南京陥落後、師団命令などによる組織的な中国軍投降兵(捕虜)の虐殺、〈便衣兵狩り〉による敗残兵・一般人の虐殺、避難する一般人への虐殺を繰り返した。強姦されたうえで虐殺された女性も多く、略奪・放火も多発した。これらの行為はハーグ陸戦法規(陸戦の法規慣例に関する条約・規則)などに違反する戦争犯罪として、敗戦後の東京裁判と南京でのBC級裁判で責任が追及された。被害者数は、中国側では公称30万人、最近の日本側の研究では10数万から20万人といわれる。[岩波日本史辞典]

¹⁷《口》騒乱.[株式会社研究社 リーダーズ+プラスV2]

¹⁸国外在住者[株式会社研究社 リーダーズ+プラスV2]

¹⁹ <http://festival.sundance.org/filmguide/Default.aspx>

²⁰ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 出典: フリー百科事典『ウィキペディア

(Wikipedia)』 ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 (Yubari international fantastic film festival) とは、北海道夕張市で開かれていた映画祭である。初めての開催は1990年で、以来毎年2月に開催されていた。

者らによって、今年限りで“復活”することになったと云う。その名称は、「ゆうばり応援映画祭²¹」と、最近新聞に報じられた。

しかし、その目玉となる作品は、「バベル」、「ロッキー・ファイナル」、「ドラえもん」。「バベル」はともかく、後の2作品は、観客動員を優先的に狙ったとはいいながら、あまりにも志が低すぎる。これでは、ゆうばり映画祭の復興は覚束ない。

同じ北海道でありながら、旭川市の旭山動物園の盛況を、すこしは参考にするべきである。また、旭山動物園には、NPOの応援団「特定非営利活動法人旭山動物園くらぶ²²」がついている。「くらぶ」のHPに掲載された代表多田ヒロミ氏の挨拶を引用して本稿を終えたい。

レクリエーションと教育（学ぶ）ということは密接に結びついているものだと思います。

楽しく学んだものはいつまでも忘れず、しっかり語り継がれるもの、そして楽しく学ぶ気持ちは優しさにつながっていくものと信じています。

旭山動物園が伝えるのは『命』であるのなら、私たち旭山動物園くらぶが伝えていきたいのは『知る楽しさ』でありたいと願っています。

命を尊ぶ優しい気持ちが、これからの動物園、そして優しい街づくりにつながっていきますように・・・・・・・・

考える材料は沢山あるが、考える時間はあまりないのかも知れない。(Saturday, January 20, 2007)

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%86%E3%81%86%E3%81%B0%E3%82%8A%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%95%E3%82%A1%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%82%B9%E3%83%86%E3%82%A3%E3%83%83%E3%82%AF%E6%98%A0%E7%94%BB%E7%A5%AD>

²¹ <http://www.mainichi-msn.co.jp/photo/news/20070119k0000m040109000c.html>

²² <http://www.zooclub.jp/aisatsu.php>

第 24 回理事会

中川房代

世の中は、どんどん進化し、変化していく。2～3年前には到底考えられなかったことが現実のものとなり、私たちの生活を変えていく、という場面が多々ある。

私にとってのその1つは情報手段である、コンピュータ、メールであり、携帯である。初めはちゃんと使えるか不安でいっぱいであったが、これらは、既に私の生活の一部に定着したし、これらがないと生活が成り立たないとさえ感じるほどになった。朝起きて、まずコンピュータでメールのチェックをする。私は早起きとはいえないので、返信を書く時間が十分でないことが多いため、返信が必要と思われるメールには、夜帰宅後に書けるよう、とりあえず宛先だけを挿入したメールを下書き用のメールボックスに保存しておく。帰宅後の生活も、まずメールのチェックから始まる....そんな生活になった。

だから、コンピュータがないとか、メールが繋がらないと、とても困る。特に年明けは「第24回理事会」や「韓国早期英語教育視察の報告会」を控えて、準備や連絡等でコンピュータやメールを使う必要があったからだ。今年のお正月は、夫の父と祖母の法事を兼ねて鹿児島に滞在したが、滞在先の叔母宅は黒電話。ネットが繋がらない。仕方がないので、携帯でPCメールが読めるように設定し、幸いに滞在中は忙しくなかったもので、どうしても必要なときは、散歩と息抜きを兼ねて徒歩10分のインターネットカフェに行った。

e-dream-s をやり始めて、事務的な仕事や連絡などといったことは私にとっては苦にならない、ということも自分的には発見でもあったが。やはり職人体質なのかな？

さて、前置きが長くなり（過ぎ？）でしたが、第24回理事会の報告です。

1月6日夜、神戸で「第24回理事会」を開催しました。今回は拡大理事会として、理事以外の多くの会員の参加の中で賑やかな開催となりました。

事業報告として、2006年9月に1万枚に達した「教育用海外写真サイト@aglance」、11月に韓国の小学校、中学校、英語塾などの英語の授業を参観し、先生や子ども達へのアンケートを実施した「韓国早期英語教育視察」の報告、ホームページの現状報告がありました。

「ECAP」(Educator's Collaboration of Asia- Pacific)は2007年夏の開催で5回目、会場は東京を予定。内容も、“英語による小中学生対象日韓文化交流のつどい(仮称)”を企画中です。実行委員は、東京から岡田さん、新谷さん、宮城さん、スーパーバイザーとして大阪の藤澤さん。現在、実行委員を募集中です。(実行委員募集についての問い合わせ先は、藤澤さん) ECAP実施に関連して、助成金の応募活動も精力的に進めてきています。(担当は稲川さん、仙崎さん)

財政についても昨年度から単年度黒字に転化し、累積赤字の解消に向けて前進してきていますが、まだ小口債券や寄付に頼っているのが現状です。

@aglance 事業が一区切りとなり、次に「これぞ！e-dream-s！」といえる新規事業の企画が求められています。今年はその新規事業の企画に力を入れていきたいと考えています。皆さんの事業へのアイデアもお寄せください。

新年を迎え、また3月には、e-dream-s 設立丸7年となる2007年、e-dream-sらしい事業の展開と、健全財政に努めていきたいと思えます。

<議事内容> (敬称略)

(1)報告事項1 2006年事業年度事業の中間報告について

- ・@aglance 事業 (辻)
- ・韓国早期英語教育視察 (中川)
- ・「ECAP 2007」準備状況、今後の方針について (岡田、辻)
- ・助成金応募状況 (稲川、仙崎)
- ・ホームページ (仙崎)

(2)報告事項2 財政について

- ・収支決算の中間報告 (藤本)
- ・寄付の報告 (辻)
- ・ワインプロジェクト報告 (塚本、辻岡、須賀)

Rajiv 氏とチキンカレー

理事 山田昌子

2004年の暮れ、e-dream-s でインドツアーを企画した時、京都のインド料理レストランに働いておられたコルカタ出身の男性、Rajiv 氏が協力してくれたことを覚えておられますか？コルカタで働く弟を私たちに紹介、お陰で様々な学校訪問が可能になりました。また、中川さんと私は、彼のご両親が住むアパートを訪れ、普通の観光旅行では出来ない経験をしました。

先日、その Rajiv 氏に、勤務校の私のクラス（英語コミュニケーションコース）の3年最後の“国際理解教育講座”の講師として来ていただきました。現在東大阪のインド料理レストランで一緒に働いているネパール出身の Tara 氏を伴い、インド料理を通じた異文化交流（「インドのカレーを体験し、Rajiv 氏・Tara 氏と交流しよう！」）を行いました。今回はそのひとコマを紹介します。

実は Rajiv 氏・Tara 氏にとって、日本の学校でこのような講座をするのは初めて。事前に打ち合わせをしたものの、生徒に料理を作らせて体験させるというよりは、料理人である自分たちが作ってあげるという思いが強い。それなら、英語と総合的な学習の時間の2時間を予定しているのに、生徒は手持ち無沙汰になってしまう。彼らにとってもどうなるかわからない、私にとっても彼らがどうしたいのかよくわからない、どのように進めたらいいんだろう。また、予め乗る電車の行程を連絡したものの、当日彼らは西大寺から乗るべき電車を間違え、勤務校への到着が大幅に遅れ、不安な講座の始まりとなった。でも、異文化なんだからお互い分からないのは当たり前、案ずるよりも産むが易し?! 言葉の問題もあるけれど、互いに分かり合おう、コミュニケーションをしようという気持ちさえあれば、同じ目的に向かって何かを一緒にすることは出来るし、また互いに学ぶこともある筈だと思い直した。

とりあえず「1班は鍋を、2班はまな板を洗いなさい。」「他の班は、玉葱やトマトを洗って皮を剥きなさい。」・・・と指示をしていると、お二人が到着された。「わあ、来はった！」生徒たちの歓声に、調理室の私のところに歩いて来られたお二人は、すごく緊張されているのが感じられた。

“Everybody, this is my friend, Rajiv. And this is Tara. Let’s say, ‘Namasute’ to them.”
「ナマステ！」「ナマステ！」手を合わせ、笑顔の生徒たちと挨拶をすると、お二人の顔に少し安堵の表情が見えた。「さあ、始めましょう。」

Tara 氏が愛用の包丁を取り出し玉葱を切り出すと、そのスピードに生徒たちは目を丸くした。「プロだから動きが速く、大胆でかっこイイ」「カレーにトマト？」「トマト、ミキサーにかけるの、やりたい」「人参やジャガ芋って入れないんや」「やっぱりインドやし、鶏なんや」

インドカレーはどんなでどのように作るのか、視覚と嗅覚、味覚による異文化体験の始まり、始まり。

鍋を熱くし油をいれた Rajiv 氏、「センセイ、油は？」「少々って言ったから、500ml 1 本しか買ってないけど。」「もう 1 本要ります。」「エッ？」なんとか家庭科の予備用の油を見つけ渡すと、Tara 氏は大きなズンドー鍋 2 つにサラダ油 2 ～ 3 本ドクドクと入れた。思わず、生徒から「ええ？いくら 40 人分でも、そんなに入れるの？」と声。「すご！玉葱もう溶けている！」

「ミルクとカシューナッツ、お願いします。」「どうするの？」「ミキサーにかけます。カレーは辛いですから、これ、マイルドにします。」そう言えば、コルカタに行った時カシューナッツを一杯売っていたっけ。「先生、うちらが買ったカシューナッツもインド産やで。」

「スパイスです。」Rajiv 氏がアルミホイルに包んだものを開けると、辛く香ばしい香りが当りに漂った。「インドには、スパイス、80 種類位あります。」「今日のスパイス、ウコン、コリアンダー、ガラムマサラ、ジンジャー、ココナッツ、唐辛子です。」「わっ、辛そう！」「すごい臭い！」「このスパイス、初めてや。」「今日のカレー、めっちゃ辛そう」「食べられるやろか？」「スパイスって、一気に入れへんねんな。種類によって入れる順番があるんねんなあ。」生徒の反応は様々。

カレーを煮詰め始めた。「カレーはルーと鶏肉しかないみたい」「サラサラや、日本のカレーとやっぱり違うわ」カレーを煮詰めている間、及びカレーを食べている間、班毎に生徒たちが Rajiv 氏にインタビューをした。初めての講座で講師として自分から話すよりは、生徒たちから話をしてもらおう方がいいという Rajiv 氏の意向を受けて、生徒たちに質問を準備させておいた。ちゃんとやってるんやろか、担任としては気になる。インタビューを終えた生徒は、質問に答えてもらって満足そう。

いよいよ出来上がり。作って持って来てもらったナンを班毎にオーブンで温め、カレーを口にする。「辛！でもいけるわ。」「先生、めっちゃ美味しい！食べる？」「辛いカレーと少し甘い感じのナンがすごく合ってるわ！」「ラジブさん、タラさん、ありがとう！」

生徒たちにとってこれらの経験は新鮮だったようだ。ふたりが話すヒンズー語も初めてで、クラスがシーンとなって聞き耳をたてたのも、私にとって面白かった。このような講座は準備も大変だし生徒への事前・事後の指導も楽ではない。でも、経験をしなければ本当にはわからないことも多い。卒業を前にした生徒たちは、これまで多くの国内外の講師と接してきて、このような講座は大好きだ。

Rajiv 氏は、講座が終わった時おっしゃった。「いろいろありがとう。とっても楽しかった。日本では忘れない経験になった。ほんとにありがとう。タラ君もすごい喜んでます。」

最後に、生徒たちの感想の中からひとつ紹介します：

めっちゃ楽しかった。ラジブさんは質問し易い穏やかな感じの人で、色々な話を聞けました。特に面白かったのは、ヨガを教えてもらったことです。座って膝に肘をついて深く息を吸って一気に吐く。これだけでダイエット効果があり、1週間で効果があるそうです。インドでは、たいていの人がヨガが出来るそうです。また、インドカレーはものすごく油がたくさん入っていて、驚きました。そして、数種類のスパイスの中で、私の嫌いなウコンとお菓子でしかたべたことのないココナツが入っていることに気が付き、不安になりました。ですが、実際食べてみると、あっさりしていて、本当に美味しかったです。インドには、昔から興味があったのですが、今回の経験を通じて、さらに行ってみたくくなりました。

「食べ物」

塚本美紀

新神戸駅でのぞみに乗り込み、お気に入りの白いフェルトのスーツが皺にならないよう慎重にシートに腰掛けた。e-dream-sの理事会、アクロスの合宿に参加しての帰りである。3連休の最終日で、家族連れやカップルでいっぱいだったが、座ることができたのは好運だった。

夏に体調を崩したことをきっかけに、食べる物に気をつけている。なるべく近くで採れたもの、なるべく加工されていないものを、季節と体調にあった調理法で食べるようにしている。その甲斐あってか今年の冬は、寒くなると決まって苦しめられていた咳もでないし、私の家計を圧迫していた恐ろしく高額な美容液や保湿クリームも必要ないくらい肌の乾燥とも無縁である。体も少しスリムになって、これまでの服があわなくなったので、新しい洋服を新調するエクスキューズができたことも嬉しい。白いフェルトのスーツはその第一号である。

You are what you eat.という言い方があるそうだ。この半年、自分の体に起こった変化を考えれば、この言葉に大いにうなずける。毎日の食べ物が私たちに影響を与えないはずがない。しかし、私たちが体に取り入れるものは食物だけではない。口からだけではなく、目からも、耳からも、あるいは体中の皮膚からも、四六時中いろいろなものを取り込んでいる。どうせなら、おいしくて栄養たっぷりなものを「食べ」たいと思う。

神戸では、そんなおいしくて栄養たっぷりなものをたくさんいただいた。久しぶりに会う恩師や先輩や仲間によってもたらされる、暖かい挨拶、優しい笑顔、勇気のでる言葉、興味深い写真、刺激的なアイデア、有益な情報、愉快的歌声、それらは全て、私にとって滋養たっぷりの「食べ物」であったことに気づいた。

今年はずっとおいしいものをたっぷり「食べて」、もう一歩前へ。そんなことを考えているうちに、読もうと思っていた本を開くまもなく、あつという間にのぞみは関門トンネルを貫けようとしていた。明日は仕事始め、神戸で「食べた」たくさんのおいしいもののお陰で、少し新しい私になれるような気がした。

編集後記 新年の抱負や目標をたてるような性格ではないのだが、私にとって2007年は名付けるなら「チャレンジの年」だと言い聞かせている。4月からは職場が変わり新しい環境で仕事をする。そして、夏にはECAPを東京で行なう予定だ。03年から4年間、ひとつずつ積み上げてきたECAP。先輩方のこれまでの勇気を励みに、私も臆することなく行動していきたい。(岡田)